

**Q 「少子化」克服への  
処方箋は（結婚編）**

杉田 恭之 議員



**A 出会いから子育てまでを  
総合的に支援していく**

**質問一** 本市の出生率は。

**二** 教育の場（中学校）における結婚に関する学習は。

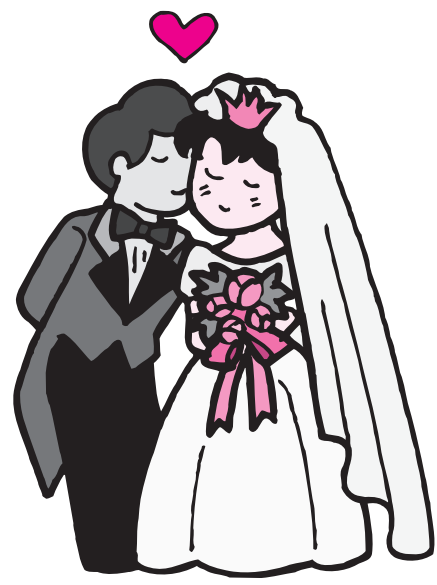
**三** 市長部局における結婚支援は。

**四** 市民センターを活用したマッチング（婚活）支援を。

**五** 市役所内の各部、各課の横断的な婚活支援の対策は。

**答弁一（市長）** 埼玉県的人口動態概況による本市の合計特殊出生

率は、平成23年が1・15、24年が1・19、25年が1・15、26年が1・17と、ほぼ横ばいである。  
**二（教育長）** 結婚に関する直接的な学習は行っていない。しかし、家族・家庭生活の大切さや妊娠、出産等の知識については、高校までの発達段階に応じた教育を行っている。  
**三（市長）** 埼玉県川越都市圏ま



ちづくり協議会として、構成7町町の持ち回りにより、婚活イベントを毎年開催している。  
**四** 保健センターで調理体験、農業交流センターで収穫体験を通じた婚活イベントが開催された。公共施設の活用の方を検討したい。  
**五** 出会いの支援のほか、職住の近接、安心して出産、育児ができる相談業務による心のケア、手当や医療費といった経済的支援など、ライフステージに応じた支援を各課で連携し、進めている。

**Q 耕作放棄地の再生について**

松尾 孝彦 議員



**A 農業者に寄り添い、農業経営と農地活用に係る支援を行う**



荒れた耕作放棄地

**質問一** 耕作放棄地の現状と課題について。

**二** 耕作放棄地の再生に向けた今後の支援体制について。

**答弁一（農業委員会会長）** 27年度の調査では、前年度から2・8

畝減少したが、10・8畝の荒廃農地がある。全国的な課題として、農業の担い手の高齢化や後継者不足等がある。それに加えて本市では、農地が小規模で分散傾向にあり、資産としての保有傾向が強い。また、市外の方が保有する農地の比率が高く、管理が行き届かない懸念がある。  
**二** 第5次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画では、農地の有効利用の

促進を掲げ、いわゆる農地バンクの活用などにより、意欲ある担い手や企業、NPO法人等への貸出しを促進している。また、荒廃農地の所有者への利用の意向調査によるきめ細かい対応や、市民農園を開設する農地所有者に対する整備に係る費用の支援をしている。  
農地は、農産物の供給のみならず、景観形成、環境保全、農業に対する理解の醸成等、多様な機能を有している。地域の実状を把握し、農業者に寄り添い、農業経営と農地活用の支援を実施したい。  
**◎その他の質問** 新婚世帯への支援策について